



The snapshot seizes the moment, grasping the depths of the human heart, the subtlest of feelings, even the ambience of the setting.

**スナップショットの魅力** 平成22年度東京都写真美術館収蔵展 [かがやきの瞬間]

2010年12月11日(土) — 2011年2月6日(日) 東京都写真美術館 [3F]

人間の深部や微妙な感情、場の空気さえも瞬間に取り込む「スナップショット」は、他のメディアにはない写真ならではのスタイルであり、その魅力に気づいた多くの表現者たちは、人間生活の様々な側面をこの「スナップショット」によって切り取って来ました。

1888年にコダックが「You press the button - we do the rest (あなたは、ボタンを押すだけ—残りは我々が引き受けます。)」というキャッチフレーズとともに、小型カメラを発売してから、「スナップショット」はアマチュア写真愛好家を中心に、広く普及していきました。そして、1925年に、ライカが小型で持ち運びのできるカメラを発表すると、写真家たちにも使われはじめ、「スナップショット」は、写真を代表する撮影スタイルになります。

2010年を迎えた現在、私たちが生きているこの瞬間まで、気の遠くなるほどの膨大な数のイメージが捉えられてきました。それには、撮影の目的に必要な情報だけではなく、瞬間瞬間の時間に潜むあらゆる情報が取り込まれてきたのです。そのなかで、写真家たちは、写真というイメージが持つ特別な能力を知り、意識的に活用し、世界を受け止める別の方法やインスピレーションを示してくれたのです。

本展では、ウォーカー・エヴァンズやアンリ・カルティエ＝ブレッソンなど写真史に刻まれるスタンダードな作品から、現代に撮影され、日本の美術館では初登場になる作品まで、未来に向け進化する「スナップショット」のエLEMENT (要素) とは何かを考えようとするものです。

#### スペシャル・フィーチャー

ポール・フスコ

「RFK Funeral Train  
(ロバート・F. ケネディの葬式列車)」より  
©Magnum Photos. Courtesy Danziger Projects, New York.



鷹野隆大

シリーズ「カスババ」より 2004年  
©Takano Ryudai  
Courtesy of Zelt-Foto Salon / Yumiko Chiba Associates



ザ・サートリアリスト (スコット・シューマン)

©The Sartorialist. Courtesy Danziger Projects, New York.



同時開催の日本の新進作家展 vol.9 [かがやきの瞬間] ニュー・スナップショット (2階展示室) もあわせてご覧ください。

#### [関連事業]

- フロア・レクチャー：第1・3全曜日午後2時より、担当学芸員が展示解説をおこないます。  
\*本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。
- 関連イベントにつきましては、当館ウェブサイト <http://www.syabi.com> をご覧ください。

#### [観覧料]

一般 500 (400) 円 / 学生 400 (320) 円 / 中高生・65歳以上 250 (200) 円

\* ( ) は20名以上団体料金 \* 東京都写真美術協会の会員、小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 \* 第3水曜日は65歳以上無料

主催=東京都 東京都写真美術館 / 東京新聞 後援=アメリカ大使館 / フランス大使館 / シブヤ大学

The snapshot seizes the moment, grasping the depths of the human heart, the subtlest of feelings, even the ambience of the setting.

**スナップショットの魅力** 平成22年度東京都写真美術館収蔵展 [かがやきの瞬間]

2010年12月11日(土) — 2011年2月6日(日) 東京都写真美術館 [3F]